

全日本中学生水の作文コンクール中央審査会特別賞（優秀賞）

限りある資源、水

埼玉県 川越市立初雁中学校 二年 山口 夏果

私たちの生活に水はかせないものである。私の一日の生活で考えてみる。まず朝起きたら、顔を洗う。そしてご飯を食べたら、お皿を洗い、歯をみがく。トイレにも入る。みんなの着た洋服を洗濯する。夜になると、風呂に入り、シャワーを浴びる。料理にも、私たちが普段食べている野菜や果物にも、水は必要不可欠である。当たり前のように使っている水だが、今、考えてみると、本当にたくさん水を、毎日使っているのだと実感する。

私が水の大切さについて考えるきっかけとなったのは、小学校三年生のときに行った、オーストラリアへの短期留学である。日本では風呂に入ることが普通だが、オーストラリアでは、風呂に入らず、シャワーを使うのが一般的である。そして、シャワーの使える量が決まっている。私もホームステイ先で

「夏果、シャワーは五分以内ですませてね。それを過ぎると、お金がかかるから、気をつけてね。」と言われた。その時はあまり深く考えなかったが、調べてみると日本では考えられないことがわかった。

まず、オーストラリアでは、オーストラリア政府が「未来のための水資源 (water for the future)」という取り組みを行っている。それは水に対する国家の十年計画で、ダムを作ったり、水のリサイクルをする拠点を作ったりする。オーストラリアは世界の中でも、十年間続いた干ばつ、気候変動など、水に関する特有の課題にさらされ、長年にわたり、水資源を管理するノウハウも培ってきたらしい。また、私が経験した風呂の水が制限されていたのもプロジェクトの一つで、制限を超えると本当に高額な罰金が発生するそうだ。そして、トイレの水も制限があるため、雨水タンクを利用してある家もあるという。

オーストラリアでは、一人又一世帯の水の使用量が制限され、制限を

超えると罰金が科せられる。しかし、日本はどうだろう。私の周りで見ると、学校で歯みがきの時に、水を出しっぱなしにしていたり、水がポタポタとすっかり止められていない蛇口を見たりする。私のおばあちゃんも花の水やりの時に何分以内でまかないと、なんていつているのは聞いたことがない。また、母が洗車するときも制限なく水を使っている。

そこで、私は普段どのくらいの水を使っているのか、調べてみることにした。すると、一日に一人で約二〇〇リットルもの水を使っていることが分かった。二〇〇リットルと聞いてはつとしないかもしれないが、スーパーで売っている二リットルのペットボトルにたとえると、一〇〇本も使っていることになる。私の家は五人家族だから、約千リットルもの水を使っていることになる。想像もできない数である。しかし、オーストラリアでは、一人一日あたり、一五〇リットル以上の水の使用は禁止されている。また、シャワーは一人四分まで、洗車するのにホースは禁止されている。そして、今オーストラリアは、水資源改革と管理における世界的なリーダーとして急速に認識されつつある。

水は限りある資源である。だから、私は普段からオーストラリアのように、水の使用を制限するべきだと思う。水を節水する意識に対して、もし不平・不満を言う人がいるのなら、それは地球に住んでいる人として「わがまま」なのかもしれない。

私も、これを機に、手を洗うとき、歯をみがくとき、食器を洗ったり風呂に入るとき、いつもより意識して節水していこうと思っている。日頃から心がけていけば、どこに行っても不便を感じることはないだろう。そして、なにより「水」を分かち合う感覚というものをいっどこにいても意識できる人でありたいと思った。